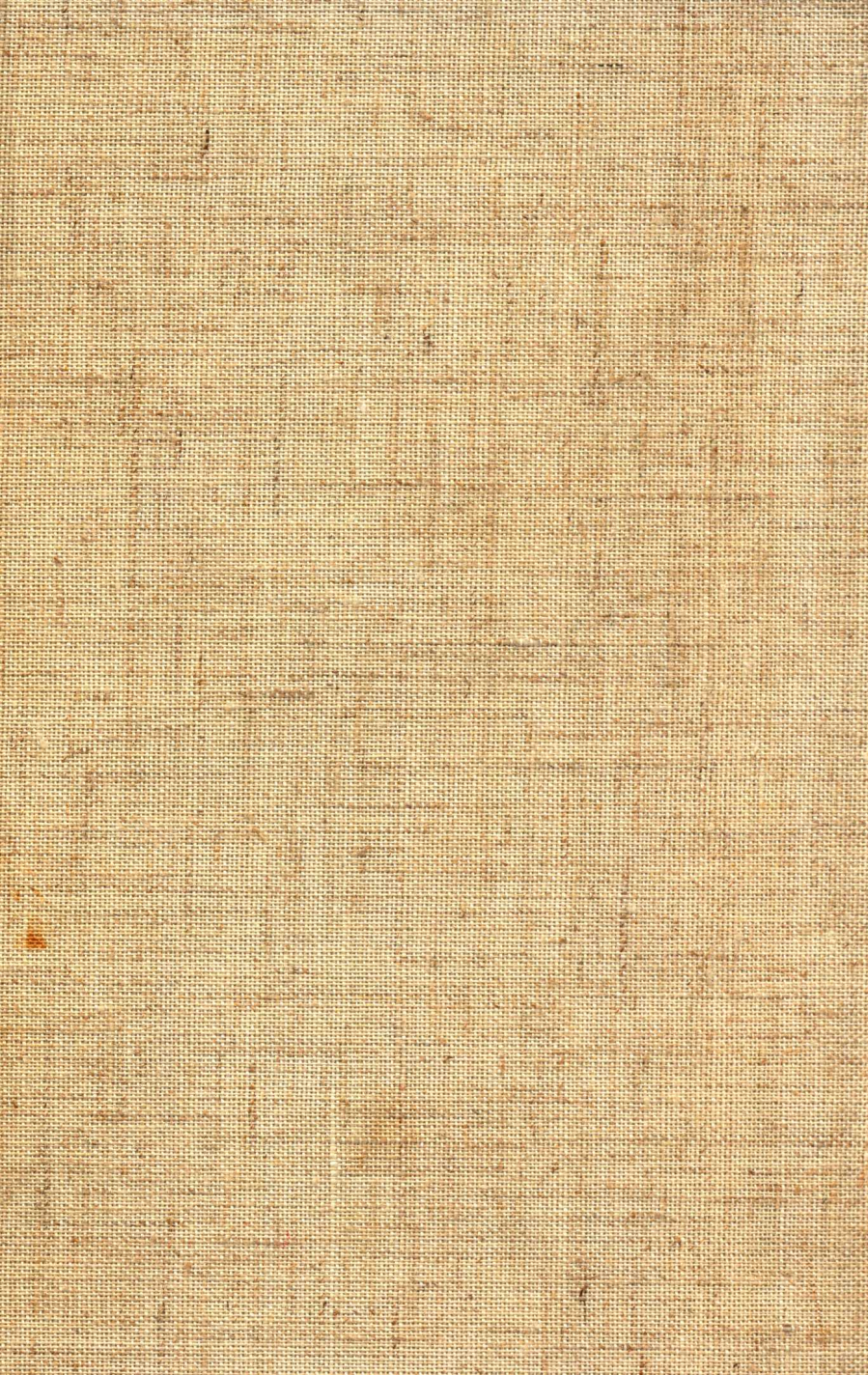




武田泰淳全集

第十六卷

筑摩書房

武田泰淳全集 第十六卷

昭和四十七年八月二十五日 初版第一刷発行
昭和五十四年五月二十日 増補版第一刷発行

著者 武田泰淳

発行者 関根栄郷

発行所

東京都千代田区神田小川町二ノ八
株式会社 筑摩書房

郵便番号 一〇一—一九一

電話 東京(291)七六五二(営業)

東京(294)六七一一(編集)

振替 東京六一四一二三

印刷 株式会社 三松堂
製本 和田製本工業株式会社

第十六卷 目 次

文章のくさみ……………	3
冒険と計算……………	5
いやな先生……………	8
忘れられぬ喜び……………	10
やや荷風式に……………	11
青の神秘……………	13
貴重な現地報告『泥と炎のインドシナ』……………	14
黄色は何を求めるか……………	17
ラムネ、水族館、熔岩……………	19
つながらない文章……………	20
「ジャピンド」について……………	22
『毛沢東その詩と人生』あとがき……………	25

私は苦しかった……………29

学士諸君へ……………36

私の古典・司馬遷の『史記』……………39

永井荷風……………41

大モノぐいの入道……………56

「守るべきもの」は何か……………58

梅崎春生の思い出……………62

富士山……………65

「毛主席詩詞」の色彩について……………67

カラマーゾフ的世界ばんざい！……………69

野間宏『華やかな色彩』……………72

濃厚な香気漂う永遠の花園……………75

朝永振一郎の二冊の本……………75

神経衰弱と女性……………77

私はこう見る……………	81
ショーロホフ氏の印象……………	82
さくらの路……………	84
あいまいな記憶……………	86
AとA・AとA・A……………	89
L・モズレー著『天皇ヒロヒト』……………	92
竹内好著『日本とアジア』……………	94
千田さんについて……………	96
微妙なく、い、かえし……………	98
『冒険と計算』序文……………	100
『新編人間・文学・歴史』あとがき……………	102
午前三時に起きて仕事……………	105
静かな計画性……………	106
空路誕生で四〇分の処女地・三宅島……………	107

地球人について……………	116
舞台再訪・『森と湖のまつり』……………	121
肉親嫌悪……………	124
外国人について……………	125
魯迅とは何者なのか……………	131
創造的人間について……………	132
キノコ狩り……………	137
魯迅死後三十年に思う……………	139
井伏鱒二さんの文学……………	143
マキャヴェリ的人間について……………	146
サルトル的知識人について……………	151
わたしの好きな、わたしの小説……………	157
菅原幸助著『現代のアイヌ』……………	158
深沢七郎『人間滅亡の唄』……………	159

一つの生き方	161
ほめるクセ	164
私の鬼女幻想	165
吉川幸次郎編著『中国文学論集』	168
きみわるさについて	169
文化交流について	171
歯のはなし	173
雨、ヒシの実、帽子	175
『揚子江のほとり』あとがき	178
「懷疑と信仰」について	180
造反派とは何か	192
私の第一評論集『司馬遷』	195
日本的なるもの	196
中国文化大革命を語る	199

文学雑感	207
バレー「白毛女」	217
私と『資本論』	219
ユーゴーの『レ・ミゼラブル』	222
飯塚朗著『北の旋律』第一部	223
乗せてもらう	224
吉田健一著『文学のたのしみ』	225
テーブルの下 of 血痕	231
彫刻家父子	233
短篇小説の無限の面白さ	236
私の自慢の本『セリンディア』	240
山麓のお正月	241
中国文学事始	244
根源的なもの	247

許広平女士をしのぶ(一) 249

私の一冊『司馬遷』 250

おねがい 252

石狩平野 253

許広平女士をしのぶ(二) 261

開高健著『輝ける闇』 262

ドンブロフスキー著『古代保存官』 263

なわばり論 265

坂本スミ子 267

魯迅と秋瑾 268

北海道のマテな夏 270

素朴純情のおもむき 271

ハシカの記念日 272

禁欲の青春 275

悠々たるいそがしさ……………	278
無邪気な酔漢……………	280
現代政界を予言する……………	281
埴谷雄高対話集『架空と現実』……………	282
『新訂・中国古典選』によせて……………	285
“文章”の不自由と自由……………	288
堀田善衛著『若き日の詩人たちの肖像』……………	291
私の読書術……………	293
“ガク”の未来を信じて下さい……………	294
司馬遷『史記』……………	296
まいういーく……………	308
河上徹太郎全集を推す……………	309
テレビ討論のすすめ……………	310
『秋風秋雨人を愁殺す』について……………	316

人民間の文化交流……………	317
北海道と私……………	320
作家にとって反逆精神とは何か……………	323
地球・庭・箱庭……………	330
富士と日本人……………	332
シルクロード五十三次……………	336
東海道五十三次クルマ哲学……………	342
「批評」グループ、その他……………	352
もっとも現代的なる文学者……………	356
娘に答えて……………	356
花田清輝著『随筆三国志』……………	359
ためらいと恥ずかしさを克服するために……………	360
陝西省西安半坡村出土の人面紋陶盆についての疑問……………	361
雄弁なるかな、人類！……………	364

中央高速道路のファン	367
胡姫と平和共存	369
深沢七郎著『庶民烈伝』	381
私の言葉	382
『混々沌々』序文	384
『混々沌々』あとがき	386
くさい男	387
ケンカ論	388
やめ屋	389
国家と文学	390
オトコの服装	391
私の生き甲斐	392
国会炎上の上の思想	392
人間を「見つめる」ということ	399

楽しきかな、見学……………	401
椎名麟三さん……………	402
埴谷雄高さん……………	403
漢字のきみわるさ……………	404
全集のむずかしさ……………	405
白川静著『漢字』……………	406
訪中29回……………	407
大失敗……………	408
迷宮とは何か……………	409
愛すべき恐竜の足音……………	410
思想の言葉……………	411
七・七記念日にあたりて……………	414
地獄・極楽……………	415
小説とはかくも恐るべきものであるか！……………	418

『黄河海に入りて流る』あとがき	419
竹内好著『中国を知るために』（第二集）	423
妥協を知らぬ創造者	424
理論と実践の新しい統一を着実に遂行	425
馬鹿について	426
私の朝食	429
ことしの回顧	430
ゴリキー著『追憶』（湯浅芳子訳）	431
僧侶の父	431
『破戒』から学ぶべきもの	434
大へんだということ	438
埴谷雄高	439
李白、杜甫にも	440
「風景」と「自然」	441

ユネスコ編『語録 人間の権利』……………	443
三島由紀夫氏の死ののちに……………	444
野間宏著『青年の環』5「炎の場所」……………	451
海外からの刺激の中で……………	453
わが思索わが風土……………	455
現代にとって文学とは何か……………	464
僧侶の良心……………	468
「蘭陵王」と「最後の一句」……………	469
中国人と日本人……………	472
樹木と酒と愛猫と……………	480
蠅ころし……………	480
視野脱落をおそれた人……………	483
物理、数理、小説……………	485
心やさしき梅崎さん……………	488

杜甫の詩……………490

富士での生活……………491

オール否定の勇士……………492

辛抱づよいニヒリスト……………495

補 遺

おめでたい話……………499

さびしそうだけれども……………501

怪しき村の旅人……………510

媒酌人は帰らない……………533

北京の輩に寄するの詩……………548

“後記の詩”……………550

『司馬遷』各版序文……………550

茅盾『虹』解題……………554